

唐津市ひれふりランド利活用に関する
意見報告書

令和４年８月１０日

唐津市ひれふりランド利活用検討委員会

も く じ

1. はじめに	．．．．． P 2
2. 唐津市ひれふりランドの施設概要について	．．．．． P 3
3. 唐津市ひれふりランド利活用検討委員会について	
(1) ひれふりランド利活用検討委員会設置について	．．．．． P 6
(2) 委員会開催の記録について	
第1回委員会	．．．．． P 6
第2回委員会	．．．．． P 9
第3回委員会	．．．．． P12
第4回委員会	．．．．． P16
4. まとめ	．．．．． P17
5. ひれふりホールに関する附帯意見	．．．．． P18
資料編	
第1 基礎データ	．．．．． P20
第2 高齢者に関するデータ	．．．．． P22
第3 子どもに関するデータ	．．．．． P24
第4 障がい者に関するデータ	．．．．． P26
公共施設カルテ	．．．．． P27
唐津市ひれふりランド利活用検討委員会名簿	．．．．． P28

【凡例】

- ・ひれふりランド ．．．地域福祉センター、保健センター、会議室その他の附属施設の総称。条例では、「保健福祉施設」と定義されている。
- ・ひれふりホール ．．．舞台及び電動式観覧席装備付大ホール（810人収容）
- ・高齢者交流センター．．．ひれふりホール（研修室を含む。）を指すが、施設全体を示す場合に用いられる。

1. はじめに

合併前の浜玉町において町民の健康保持と町民相互の交流を図るとともに保健福祉の増進に寄与するため、平成6年4月に地域福祉センターと保健センターの機能を有する「浜玉町保健福祉施設ひれふりランド」が供用を開始した。

その後、翌年4月には高齢者交流センターが完成し、地域の保健福祉の拠点として親しまれてきたが、機能回復訓練、リハビリ訓練、入浴等に使用していた施設は、デイサービス事業者の撤退後、平成28年から使用されておらず、未活用部分については課題となっていた。

そのような中、令和2年9月の豪雨・暴風災害によりひれふりホールの屋根鋼板が剥がれ、雨漏り等による甚大な損害を被り、地域住民からは一日も早い修復が望まれたが、翌年7月30日に開催された浜玉地区行政連絡員会において、復旧に多額の費用がかかること、また、市の公共施設再配置計画からも再建が難しいことが報告された。

これにより、ホールの解体後の代替施設等や令和6年に建築後30年を迎える施設の長寿命化の改修計画に併せたひれふりランド内の未活用部分を有効に活用するため、本委員会が令和4年2月に立ち上がったものである。

現在の浜玉公民館（令和3年4月開館）には、建設計画の時点でひれふりホール（810人収容）があったために、公民館の適正規模を示す改訂前の唐津市公民館等施設整備計画（平成25年4月、現在は唐津市教育委員会個別施設計画（令和3年3月制定））に定める地域人口の基準による320㎡規模の大集会室の設置が見送られている。このことから、当然ながら会議やイベントなどの実施が可能となる適正規模の施設は必要である。

なお、本委員会では、ひれふりランドが浜玉地区だけではなく、鏡地区、七山地区などを含めた市の東部地域における市民の保健福祉の増進の拠点施設となり、将来の施設の長寿命化において蓋然性の高い整備が図られるよう協議、検討を重ねたものであり、本報告書に記す事項については地域住民の願いであることを申し上げる。

令和4年8月10日

唐津市ひれふりランド利活用検討委員会
委員長 佐々木 康博

2. 唐津市ひれふりランドの施設概要について



名 称	唐津市ひれふりランド
位 置	唐津市浜玉町渕上 1602 番地 1
施設構造	鉄筋コンクリート造 一部 2 階建
開設年月	平成 6 年 4 月（地域福祉センター・保健センター） 平成 7 年 4 月（高齢者交流センター）
敷地面積	10,141.08 m ²
延床面積	4,510.18 m ²

建物名称	延べ床面積			
	1階	2階	3階	合計
地域福祉センター	1,867.49m ²	593.72m ²	5.39m ²	2,473.80m ²
保健センター				
プロパン庫	7.20m ²			
高齢者交流センター(ひれふりホール)	1,400.26m ²	421.83m ²	30.89m ²	1,852.98m ²
屋外トイレ	27.50m ²			27.50m ²
車庫	136.50m ²			136.50m ²
ひれふりランド第2倉庫	19.40m ²			19.40m ²
				4,510.18m ²

○ 建設費 総額 1,919,771 千円

高齢者交流センター建築費 854,900 千円

財源：地域総合整備事業債 731,900 千円 H17.3 月償還済

地域福祉センター・保健センター棟建築費 710,700 千円

財源：国庫補助金 176,960 千円 県補助金 64,873 千円

特別地方債 214,700 千円 一般単独債 165,800 千円

○ 施 設 等

(1) 地域福祉センター（デイサービス室・研修室・母子憩いの部屋）

地域住民の福祉ニーズに応じた各種相談、入浴、給食等の福祉サービス、機能回復訓練、創作的活動、ボランティアの養成、各種福祉情報の提供等の拠点となる施設

(2) 保健センター（機能訓練室・乳児相談室・栄養指導室）

地域住民に密着した健康相談、健康教育、健康診査等の対人保健サービスの拠点となる施設

(3) 研修室等（ロビー・研修室・和研修室）

会議室及びその他の附属施設

○ 令和３年１２月に廃止された機能等

(1) 高齢者交流プラザ

高齢者交流センター（ひれふりホール、研修室を含む。）、ゲートボール場、ふれあい広場

○ 利用状況

(1) 保健センター

健康相談、各種検診

(2) 地域福祉センター

社会福祉協議会や地域包括支援課等が実施する各種相談や創作活動または介護予防教室。なお、デイサービス事業は、平成２８年から休止。

(3) 研修室等

団体等の会議や研修会、戦没者追悼式、地区敬老行事、地元保育園のお遊戯会などに利用。

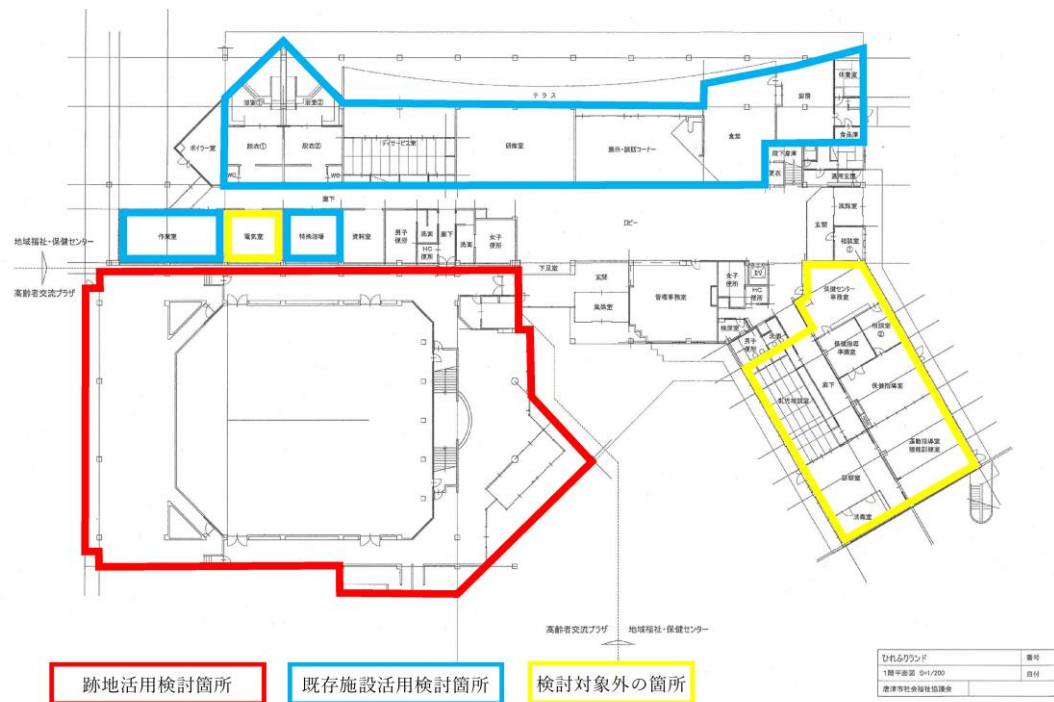
(4) 研修室等の利用人数

年 度	H29 年度	H30 年度	R 1 年度	R 2 年度	R 3 年度
利 用 者	22,399 人	26,623 人	25,496 人	18,776 人	34,537 人
和研修室	7,973 人	8,360 人	7,585 人	5,014 人	4,332 人
研修室、栄養指導室ほか	14,426 人	18,263 人	17,911 人	13,762 人	30,205 人

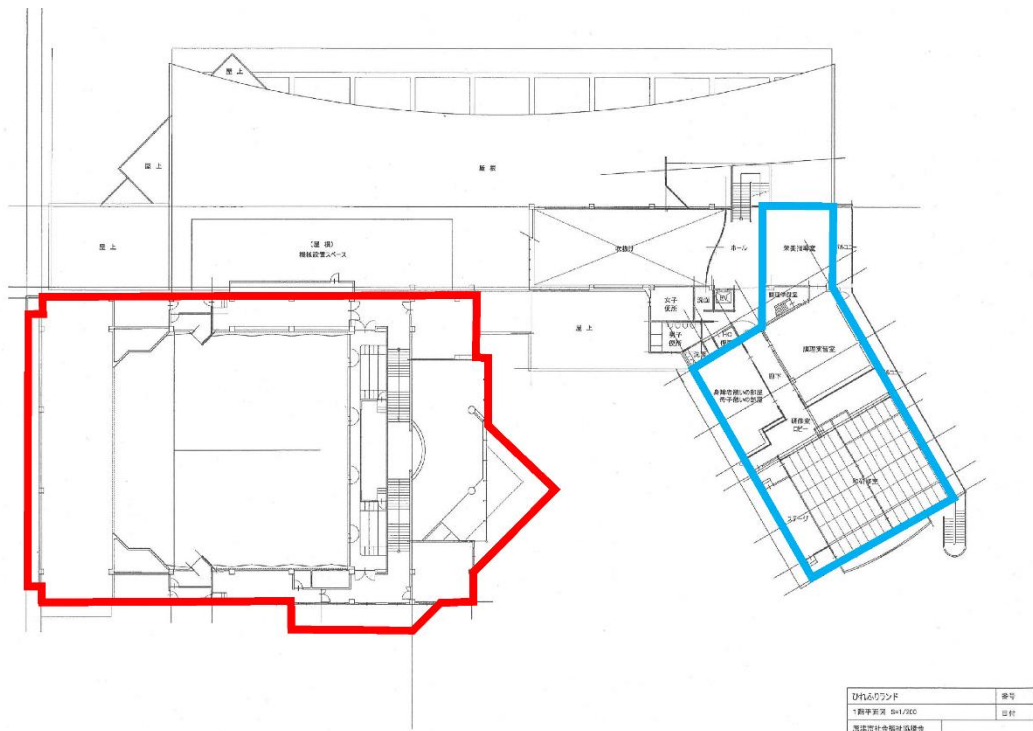
(5) ひれふりホール利用人数

年 度	H29 年度	H30 年度	R 1 年度	R 2 年度	R 3 年度
利 用 者	10,927 人	10,352 人	10,456 人	1,075 人	—

【1階フロア】



【2階フロア】



※ ひれふりホール 810 名収容

研修室、事務室（社協、シルバー人材センター各支所）

和研修室（150 人収容可能）、調理実習室

駐車場 52 台 ゲートボール場 30 台 高架下駐車場 40 台

3. 唐津市ひれふりランド利活用検討委員会について

(1) ひれふりランド利活用検討委員会設置について

市民の健康保持と市民相互の交流を図るとともに、ひれふりランドのさらなる利活用に向けた基本方針を検討し、保健福祉の増進に寄与することを目的に令和4年2月8日に設置。

なお、地域福祉センターは、地域における福祉活動の拠点として、地域住民の福祉ニーズに応じた各種相談、入浴・給食サービス、社会適応訓練、機能回復訓練、創作的活動、ボランティアの養成及び活動の場の提供、各種福祉情報の提供等を総合的に行うと規定はされているものの、すでに廃止されている事業に伴い活用されていない設備があり、このたびの検討委員会の設置によって地域福祉のニーズの実情に沿った展開ができるよう具体的な検討を行っていくことが委員会に求められた。

(2) 委員会開催の記録について

【第1回委員会】

日時：令和4年2月24日（木） 13時30分から15時10分まで

場所：ひれふりランド1階研修室にて

出席：脇山 日吉、堀 一豊、田中 俊光、鳥巢 裕人、佐々木 康博
吉村 悦子、堀 邦江、岡田 悦子、内山 恵子、志田原 富士子
中島 直子、浦郷 孝一、中村 勝、内山 茂昭

欠席：溝田 健一郎

〈協議の概要〉

- ① 委員の委嘱
- ② 委員長及び副委員長の選出
委員長 佐々木 康博氏
副委員長 鳥巢 裕人氏

③ 施設の現況確認

出席委員全員で、施設の各部屋等の現況を確認した。



④ 利活用に係る基本的な考え方の4項目について

事務局よりひれふりホールの役割を複合化し、地域の賑わいづくりにつながる効果的な活用を図るため、検討を行うにあたっての基本的な考え方の視点についての4項目が委員に提示された。

また、築後30年を迎えるにあたっての施設の長寿命化、休止中のデイサービスに利用していた入浴設備等の有効活用について検討されるよう、本委員会設置の趣旨および目的が説明された。

1. 地域保健福祉の推進を目的とした利活用
2. 浜玉公民館等との利用目的の差別化
3. 指定避難所・福祉避難所としての利活用
4. ひれふりホールの複合化

※ 「ひれふりホールの複合化」とは、例えば地域福祉センターの中に大会議室等を設置することなどにより、解体するホールの代替の役割、機能を持たせるといったことを指すもの

⑤ ホールの代替施設について

ひれふりホールは、今後の人口減少や少子高齢化社会を見据えた公共施設の再編・再配置の必要性また巨額な復旧費用が必要となるなどの理由により、復旧工事を行わず解体する市の方針が決定している。

ホール機能の代替については、本委員会で地元の意見や要望を集約し、それを受けて市が引き続き代替施設等の検討を行い、その方向性や方針を決定することが事務局より説明された。

⑥ 意見の主なもの

委員からの意見の主なものは、次のとおり。

- ・ 今の屋体を壊しての改修が可能かどうか
- ・ 地区成人式が地元で開催できるよう、400席のホールの整備
- ・ 成人式を中学校体育館で行ったが、冷暖房がなく寒い。ちょっとした発表会ができる舞台がある施設が欲しい。
- ・ コストの面を考慮し、既存の和室等を改修してはどうか。
- ・ ホールの解体後、地域の人々は新しく代わりの施設ができるものと思っている。
- ・ 「子ども食堂」開設などのボランティア活動ができる場所が欲しい。
- ・ 赤ちゃんを連れたお母さんのトイレ利用が不便。壁から開閉できるおむつ交換台が必要
- ・ 障がい者のトイレ
- ・ 小学校や中学校の予習復習の場所
- ・ バリアフリーに配慮すること
- ・ 市民が使用できる最低限の音響設備の整備
- ・ 浜玉公民館や社会体育館と利用目的の区別化とあるが、人数によって変わってくる。二重に投資はしたくないなどといった市の基本的な考え方を次回までに示して欲しい。

以上の意見を踏まえ、第2回では各委員から具体的な意見の聴取を行うこととする。

【第2回委員会】

日時：令和4年4月27日（水） 13時30分から14時50分まで

場所：ひれふりランド1階研修室にて

出席：脇山 日吉、堀 一豊、佐藤 方信、田中 秀敏、佐々木 康博
吉村 悦子、溝田 健一郎、堀 邦江、内山 恵子、中島 直子
浦郷 孝一、栗原 達也

欠席：栗原 久美子、志田原 富士子、中村 勝

〈協議の概要〉

① 委員の交代

令和4年4月1日付けにて、各所属団体から推薦を受けていた委員の交代があった。詳細は、当報告書の資料編（28ページ）に記載のとおり。

② 副委員長の選任

鳥巢副委員長が令和4年3月末付けにおいて任期満了により区長を交代されたため、平原地区会長として推薦されていた本委員会の委員を辞任された。

なお、本委員会では副委員長であったため、後任として副委員長に佐藤方信氏を選任した。

③ 委員会の協議内容

第2回目の委員会では事前にアンケートを実施し、委員から利活用に関する様々な提案があった。分類ごとに区分するとおおむね次の表のとおりとなる。

なお、委員の中から提案した自らの意見が地域福祉センターの機能として合致しているか否かを判断する上において、ひれふりランドの施設の中で改修などが可能となる範囲若しくは利活用を進めていくべき箇所等をはっきりと示したうえで、委員会として利活用に関する議論をまとめるべきではないかといった意見が出た。

なお、委員から聴取した意見について、次のとおりの分類に区分した。

ア 利活用に関すること

大分類	中分類	小分類	対象
余裕スペースの利活用に関するもの	福祉施設としての活用	高齢者が気軽にに行ける軽運動、健康相談等が可能な憩いの場	○
		障がい者の就労支援（厨房貸出）、マルシェの開催	○
		ひきこもり、学習障害、発達障害の子どもの交流の場	○
		乳幼児、子育て世代が立ち寄れるカフェ、弁当持参でくつろげる部屋	○
		小規模プレイルーム	○
		ボランティア活動の場	○
	保健センターとしての活用	健康づくりの拠点	○
	その他	図書スペース	教育・文化・スポーツ
		卓球スペース	教育・文化・スポーツ
		フリーWi-Fi	教育・文化・スポーツ
		eスポーツの拠点	教育・文化・スポーツ
		パソコンを購入できない家庭へのデジタルデバイス解消の施設	教育・文化・スポーツ
		防災学習スペース（展示、訓練、研修、備蓄品の紹介など）	防災
		西松屋等の企業誘致	地域振興
		コワーキングスペース	地域振興
		市民の作品展示室	教育・文化・スポーツ
		音の部屋（楽器練習（ピアノ））	教育・文化・スポーツ
		地元農家や福祉事業所の野菜、お菓子等販売	○
施設の長寿命化・改修に関するもの	ユニバーサルデザイン	バリアフリー	○
		交通アクセスの利便性向上	○
		2階のトイレは改装が必要	○
	災害避難場所として	ソーラーパネル	防災
		駐車場地下への雨水貯水槽の設置	防災
		コロナ感染対策として換気対策を	防災
	調理施設	男の料理教室等の企画	○
		調理室は残して欲しい	○

イ 跡地の活用に関すること

大分類	中分類	小分類	対象
駐車場	駐車場の増設	各種イベント開催、予防接種、健診の際に駐車場が不足している	○
		ひれふりグラウンドのイベントと連携	教育・文化・スポーツ
		軽トラ市の開催や直売所の設置	地域振興
広場	ふれあい広場 ちびっこ広場	花壇、小型遊具、ベンチ、テーブルなどの設置	○
		就労支援を兼ねた農地（野菜、花）	○
		野外コンサート場	教育・文化・スポーツ
	運動広場	グランドゴルフ場、ゲートボール場	教育・文化・スポーツ
		スケートボード、BMXなど	教育・文化・スポーツ
ホール	ホールの新設	300人～500人程度収容可能なホールの設置	○

ウ ひれふりホールについて

大分類	中分類	小分類
新設	ホールの新設	市内全域の人が使う500人規模の小ホール的な場所が欲しい
		300人～400人収容のイベント（文化祭、成人式等）ができるホール
		舞台、緞帳、音響、照明設備、講演者の控室が必要
		グランドピアノの活用
	大会議室の新設	ホールができなければ、ひれふりランドに300人規模の会場を設置してほしい
		冷暖房設備が備わった300人～400人収容可能な大会議室
		パーティションなどで小会議室にも対応可能に
		活用できていない1階東側に設置できないか
代替施設	他施設の活用	2階の和研修室を活用することで、文化祭の発表などは可能ではないか
		大きなホールの必要性については、見直しが必要ではないか。
		建物にお金をかけるよりも、どのような利活用をするかが持続する秘訣ではないか
		文化祭や育成大会は大きなホールは必要ない考える。社会体育館に冷暖房が入れば、より利活用は進むのではないか

【第3回委員会】

日時：令和4年7月14日（木） 14時から16時05分まで

場所：ひれふりランド1階研修室にて

出席：脇山 日吉、佐藤 方信、佐々木 康博、吉村 悦子、堀 邦江

栗原 久美子、内山 恵子、志田原 富士子、中島 直子

浦郷 孝一、栗原 達也

欠席：堀 一豊、田中 秀敏、溝田 健一郎、中村 勝

〈協議の概要〉

① 施設の減築と大会議室の設置について

今度、解体を予定している高齢者交流センター「ひれふりホール」の代替の施設について、使用していない地域福祉センターのデイサービス事業で使っていたスペースに300人規模の大会議室を整備するという案に対して、建築住宅課および複数の建築業者等と検討を重ねた結果、現状では建物を減築または一部を解体することにより耐震基準を満たさなくなるという点、その他建築の技術的な問題があり、大会議室の整備は困難であるということについて事務局から委員会へ報告された。

なお、この報告に対する委員の意見については、附帯意見の中で後述する。

② ひれふりランドの利活用を検討する箇所について

5ページに示している施設の平面図をもとに、事務局より説明があった。

③ グループワークによる意見のとりまとめ

第3回目の委員会では、第2回に委員から提出された利活用に関する意見をもとに地域福祉センターであるひれふりランドの利活用について、どのような機能が地域に求められているかといった視点によってグループワークによる意見集約を行った。

検討項目として、

- ① 福祉利用目的、
- ② 多世代型地域共生利用目的、
- ③ 跡地の活用、
- ④ その他、

の4項目に主眼を置くこととした。

なお、グループワークでは、幅広い世代の意見をまとめるといった観点から
※ペルソナの設定を行い、2つに分かれて作業を進めた。それらの意見は、14から15ページのとおりである。

広用紙の中央に書かれた円の中に貼付してある付箋または円に掛かっている付箋に書かれた意見は、地域福祉センターの利活用に対して優先度の高いもの、あるいは利用者や地域住民が求めているニーズとして、それぞれ3つ程度に絞り込みを行い、まとめとしたものである。

絞り込みを行った以外の意見についても、当然、地域福祉の増進にかかる市民の意見として、長寿命化に合わせた改修計画の参考にされることを望むものである。

※ペルソナの設定

ペルソナとは、架空の人物モデル、ユーザー像のことで、実在する人物のように仮説を設定することで戦略や施策の立案に生かすことができること

ピンクの付箋・・・現在の自分の年齢、性別での意見

きいろの付箋・・・子育ての真っ只中と仮定した場合の意見

みどりの付箋・・・男性は女性に、女性は男性とし、かつ、ご自身が一番がんばっていた年齢での意見

〔Aグループ〕



〈福祉利用目的〉

- ① 子育て世代に欠かせない病後児保育
- ② 学習障害・発達障害の方の一時預かりと、保護者等の相談スペース
- ③ 高年齢者でも利用できる健康器具の設置による健康づくりに寄与する施設

〈多世代型地域共生利用目的〉

- ① 室内遊具を設置し、小さい子供からお年寄りまで集える施設。下関の「ふくふく子供館」のようなカフェ機能がある休憩スペース。
- ② 市民の作品展示スペース
- ③ 誰でも参加できるチャリティー、福祉目的のマルシェの開催
- ④ ボランティア活動の場所

〈跡地の活用〉

- ① 駐車場
- ② 町なか花壇（宮崎市や熊本市などで実施している花みちプロジェクト）
- ③ 障がいを持つ方々のふれあい農園
- ④ 親子、多世代が集える多目的広場

〈その他〉

- ① ひれふりランドまでの二次交通の確保
- ② リラックスルーム、音まちピアノ
- ③ 300～400人規模のホール

【第4回委員会】

日時：令和4年8月5日（金） 13時57分から15時15分

場所：浜玉市民センター会議室

出席：脇山 日吉、堀 一豊、佐藤 方信、田中 秀敏、佐々木 康博

吉村 悦子、溝田 健一郎、堀 邦江、栗原 久美子、内山 恵子

志田原 富士子、中島 直子、浦郷 孝一、中村 勝、栗原 達也

欠席：なし

〈協議の概要〉

① 唐津市ひれふりランド利活用に関する意見報告書（案）について

第4回委員会では、これまでの検討結果を踏まえ作成された意見書（案）の字句の整理、精査を行った。

報告書を取りまとめるうえで、一部の委員からはこれまでひれふりホールを活用して実施していたイベント等はオンライン等のデジタル技術の活用によって会場分散型でも実施可能であること、また、独立したホールは使用の用途が限定されることから、多目的な利用が可能となるよう施設のリノベーションを行うことが効果的でないかといった意見がだされた。

このように、ひれふりホールについては依然として委員の関心も高く、第4回目の委員会においても独立したホールが「必要」との意見や、将来の負担も考慮し、ホールは「不要」といった議論が交わされたが、報告書に次の内容を反映させることで、意見報告書（案）がまとめられ、委員会は終結した。

- ・ ホール機能の再整備（代替施設または代替機能を有する施設の設置を含む。）については、本委員会としては喫緊の課題であることがわかる表現とすること。
- ・ 300人程度のイベント等が実施可能なホールの機能を備えた代替施設については具体的な代替案が示され、具現化されることを要望したいといった表現にすること。

4. ま と め

以上が、4回の委員会を通して提案された各委員からの主な意見である。

特に、第3回委員会で行ったグループワークでまとめられた意見でも明らかなように、Aグループ、Bグループともに、病児・病後児保育、発達障害や障害を持つ子育て世代に対する支援充実や自立支援、子どもから高齢者までが世代を超えて地域の交流の場として活用できるような地域共生型の交流施設としての活用を望む声が多く挙げられた。

市当局としては、これら委員の意見を参考に、集約、総括し、保健福祉施設であるひれふりランドが、若い世代の流入を見据えた福岡市近郊のベッドタウンとして、またセミリタイアした世代にとっては生きがいを感じられるセカンドライフの拠点として、今後ますます地域に根差した福祉目的の活用ができるよう、長寿寿命化工事計画の際には、次の視点を取り入れた整備ができるよう検討されたい。

1. 地域福祉センターについては、唐津市東部エリアにおいて、子どもから高齢者まで誰一人取り残さない、そして誰もが利用しやすい多世代の地域共生型の交流施設となるよう整備すること
2. 保健センターについては、健康診断事業での活用だけでなく、日常的な健康相談、健康器具等の設置による健康増進の拠点とすること
3. 解体後のホール跡地については、駐車場整備と併せて、市民広場や交流憩いの場としての新たな魅力を創出すること

5. ひれふりホールに関する附帯意見

高齢者交流センター「ひれふりホール」は、令和2年9月の豪雨・暴風による被災後、現施設の修復は難しく、現施設は解体との市の方針が示されている。

当ホールは、これまで成人式、青少年育成大会、戦没者追悼式、老人会が主催する春秋会大会、市民文化祭等の地域行事が開催されるなど、広く地域の住民に親しまれてきた施設だけに、ひれふりホールの解体によってこれらの活動等が制限される影響は大きいと懸念しているところである。

ホール再建の代替案として検討された現在のひれふりランドの未活用箇所（浴槽やデイサービス室等）を減築し、大会議室を設置する案については、耐震等の問題から断念せざるを得ない状況であることについて第3回委員会で説明を受けたが、300人程度のイベント等が実施可能なホールの機能を備えた代替施設の確保については地域住民にとって喫緊の課題であることは変わらない。

代替案の選択肢は一つとは限らないため、市としては引き続き真摯に検討され、一日も早く具体的な方針を定め、当該代替案が早急に具現化されるよう要望する。

なお、令和4年度中に着手される予定であるひれふりホールの解体工事の際には、本委員会もしくは地域住民に対し、代替施設または代替機能の確保についての方針について手法や時期を明確にするなど、なるべく早い段階で丁寧に説明する機会を設けるよう要望し、報告書の附帯意見とする。

資 料 編

第1 基礎データ

(1) 令和2年国勢調査（確報）の結果

【浜玉地区】

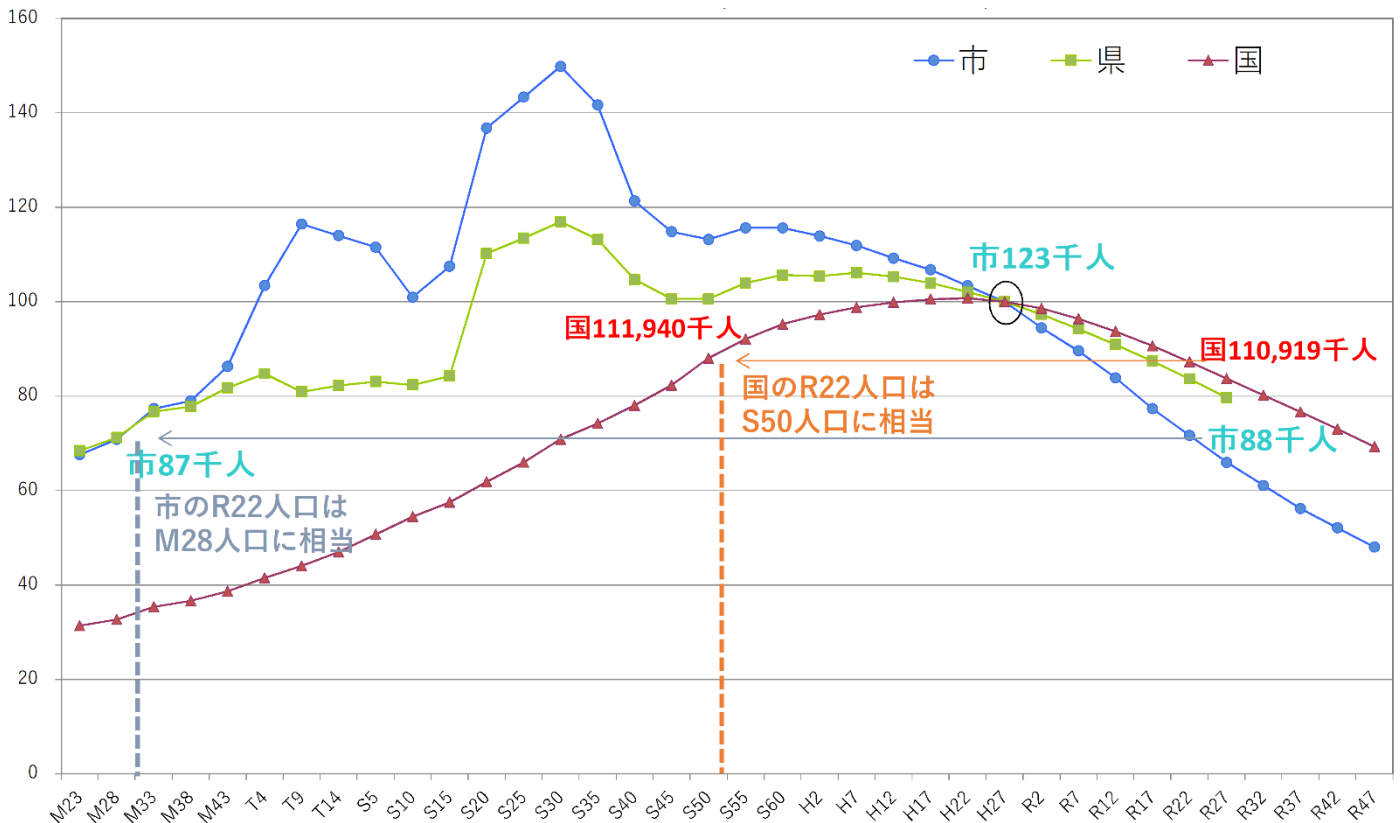
年次	R2	H27	前回調査（H27）との比較	
			増減数	増減率
総人口	11,140	10,860	280	2.6%
老年人口	3,149	2,869	280	9.8%
生産年齢人口	6,077	5,952	125	2.1%
年少人口	1,897	1,729	168	9.7%
年齢不詳	17	310	△293	△94.5%
高齢化率	28.3%	26.4%	1.9%	—
総世帯数	3,770 世帯	3,437 世帯	333 世帯	9.7%

【唐津市全体】

年次	R2	H27	前回調査（H27）との比較	
			増減数	増減率
総人口	117,373	122,785	△5,412	△4.4%
老年人口	38,363	35,842	2,521	7.0%
生産年齢人口	62,594	69,052	△6,458	△9.4%
年少人口	16,016	17,235	△1,219	△7.1%
年齢不詳	400	656	△256	△39.0%
高齢化率	32.7%	29.2%	3.5%	—
総世帯数	44,192 世帯	43,872 世帯	320 世帯	0.7%

※老年人口（65歳以上）、生産年齢人口（15歳以上～65歳未満）、年少人口（15歳未満）

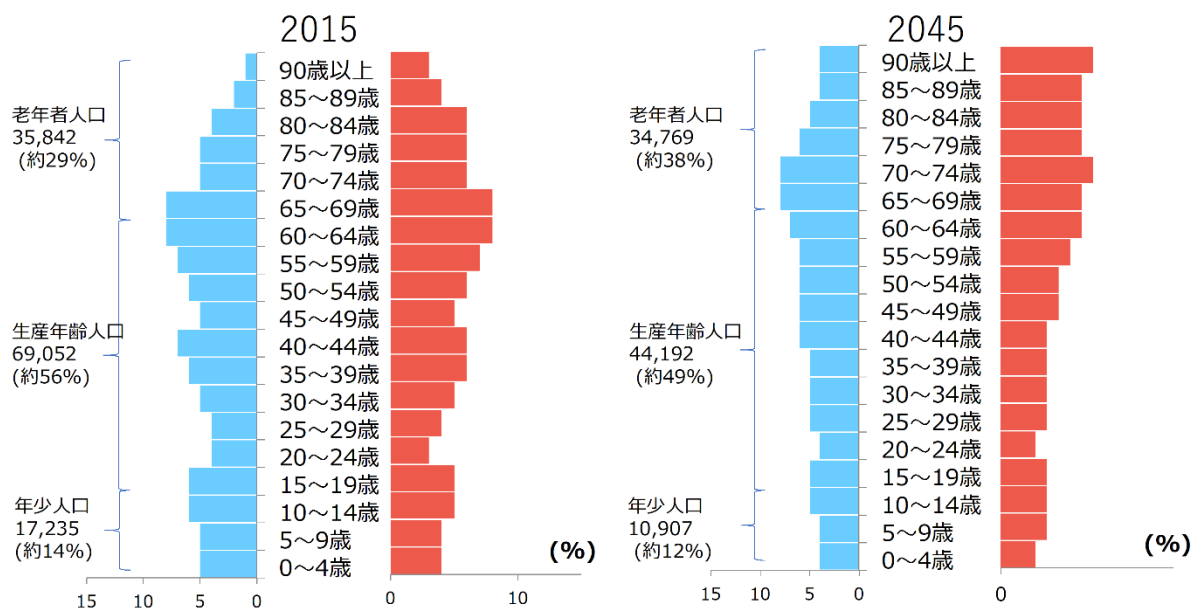
(2) 将来人口推計（県・国との比較）



※唐津市論点データ集参照

上のグラフは、2015年（平成27年）の人口を100とした場合の本市、県、国の人口推移を示したものの。

例えば2040年（令和22年）の人口が過去のどの時点に相当するか遡ってみると、国全体では昭和50年に相当するが、唐津では明治28年相当となると推計されており、このことから急速なスピードで人口減少が深刻化していくことが外観できる。

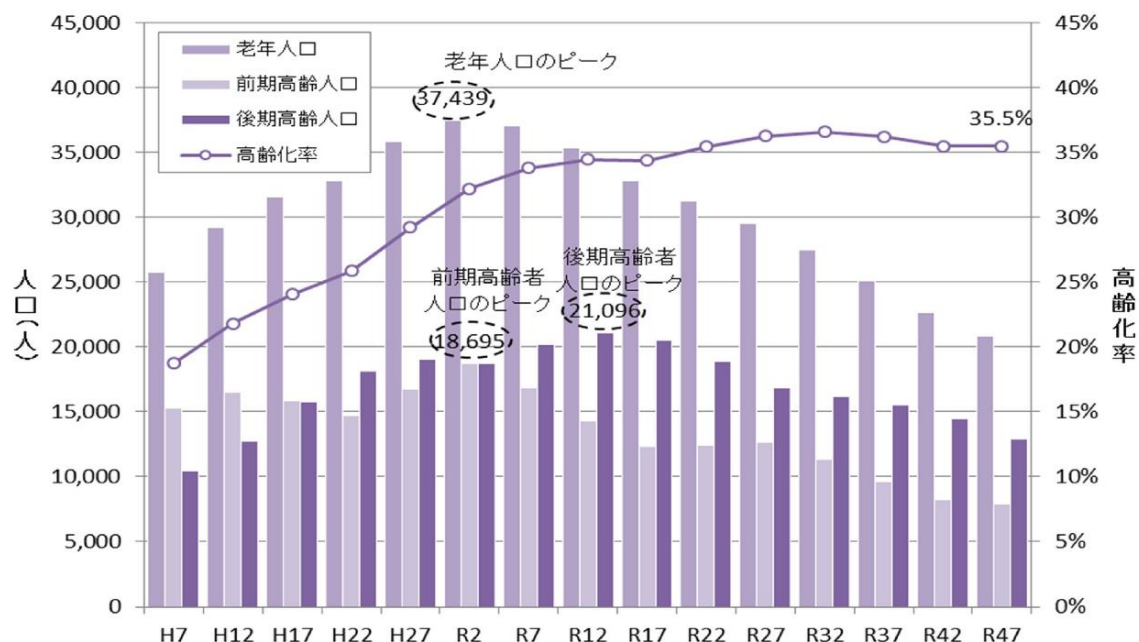


※地域経済分析システム RESAS 参照

第2 高齢者に関するデータ

(1) 老年人口の推移

※唐津市論点データ集参照



※唐津市論点データ集参照

高齢化率は、2065 年（令和 47 年）には 35.5%に達する。

一方、老年人口のピークは団塊世代が前期高齢者となったため、2020 年（令和 2 年）の 37,439 人でしばらくは横ばいの状況が続く。

65 歳から 74 歳までの前期高齢者人口は老年人口全体と同じ 2020 年 18,695 人だが、介護等の必要性が高まる 75 歳以上の後期高齢者人口は 10 年遅れて 2030 年（令和 12 年）に 21,096 人でピークとなる。

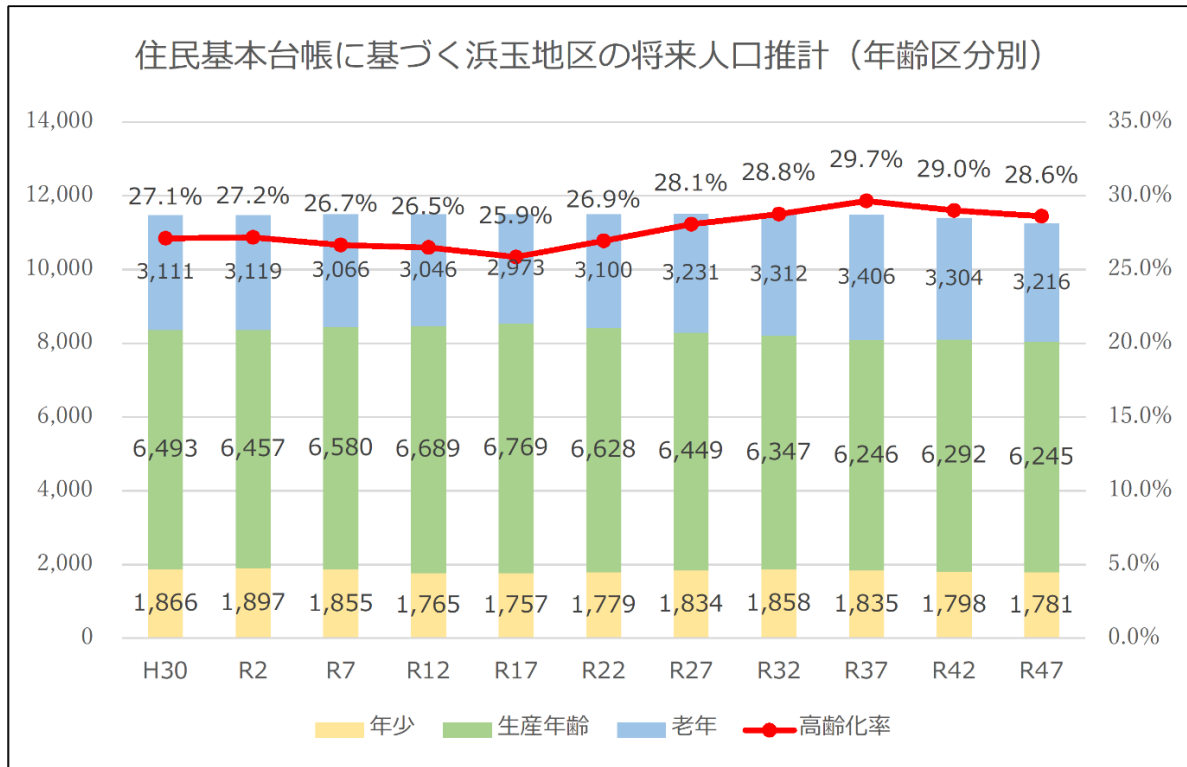
(2) 要介護認定者数について（R3.11 月末現在）

単位：人

	浜玉地区	唐津市全体	浜玉／市全体
第 1 号被保険者数（65 歳以上）	3,177	38,777	26.8%
要支援・要介護認定者数	528	6,615	8.0%
要支援 1	80	968	8.3%
要支援 2	45	740	6.1%
要介護 1	111	1,637	6.8%
要介護 2	72	1,015	7.1%
要介護 3	84	863	9.7%
要介護 4	87	870	10.0%
要介護 5	49	522	9.4%
認定率	16.6%	17.1%	—

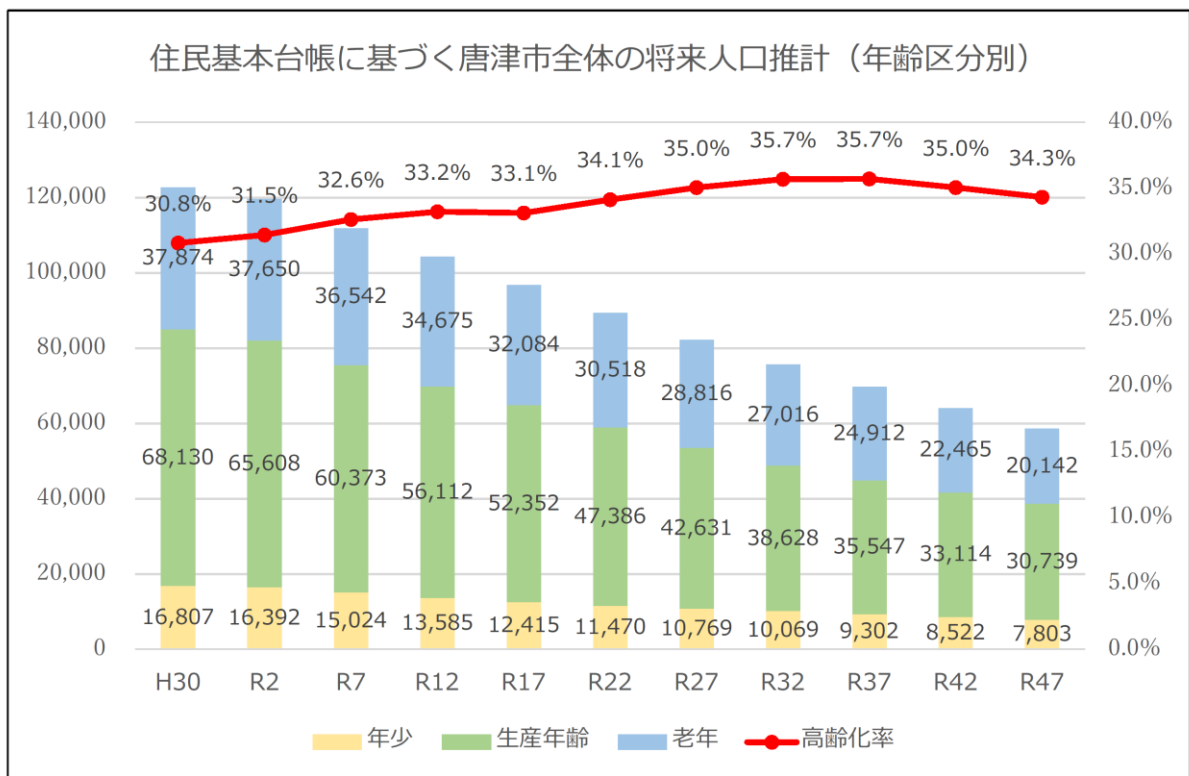
※認定率とは要支援・要介護認定者の人数を第 1 号被保険者で除した値

(3) 住民基本台帳に基づく浜玉地区の将来人口推計（年齢区分別）



※唐津市論点データ集参照

(4) 住民基本台帳に基づく唐津市全体の将来人口推計（年齢区分別） 単位：人



※唐津市論点データ集参照

第3 子どもに関するデータ

(1) 児童・生徒数（毎年度5月1日現在）

単位：人

	H29	H30	H31	R2	R3
浜崎小学校	632	671	704	687	692
玉島小学校	78	77	73	67	67
平原小学校	51	53	51	51	42
浜玉中学校	331	317	315	334	356
合計	1,092	1,118	1,143	1,139	1,157

(2) 放課後児童クラブ登録者数（年度末現在）

単位：人

	H29	H30	H31	R2	R3(R4.1)
浜崎児童クラブ	152	191	216	204	194
玉島児童クラブ	29	26	22	22	26
平原児童クラブ	17	19	22	24	22
合計	198	236	260	250	242

(3) 児童扶養手当受給者数（R3.12月末現在）

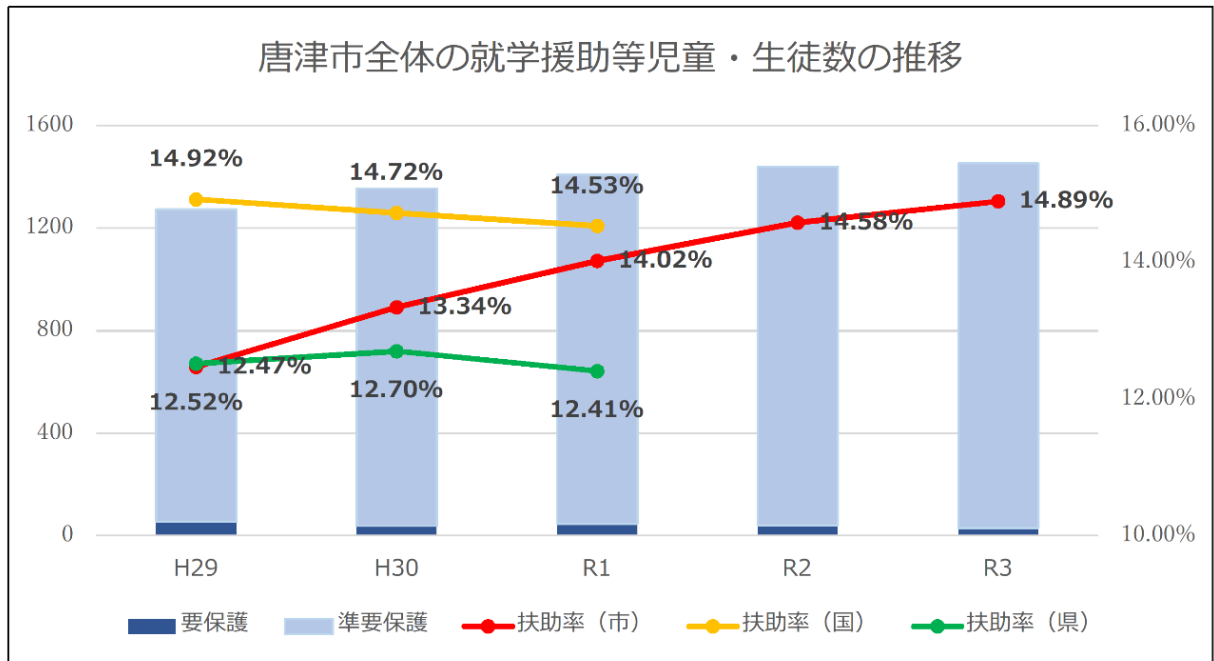
単位：人

	受給世帯数	養育者数	対象児童数
浜玉地区	161	161	304
唐津市全体	1,749	1,749	3,301
浜玉地区／市全体	9.2%	9.2%	9.2%

(4) 唐津市全体の就学援助等児童・生徒数の推移（毎年度5月1日現在）

単位：人

	H29		H30		R1		R2		R3	
	要保護	準要保護	要保護	準要保護	要保護	準要保護	要保護	準要保護	要保護	準要保護
小学校	32	736	25	812	29	832	24	824	17	831
中学校	23	482	14	504	18	530	17	574	13	592
合計	55	1,218	39	1,316	47	1,362	41	1,398	30	1,423



※ 唐津市の教育参照

※ 扶助率とは要保護・準要保護の人数を全児童生徒数で除した値

※ 本市における就学援助の扶助率は増加傾向。国、県の数値は令和元年度まで公表。

(5) 子ども食堂（子どもの居場所）実施団体

運営団体	食堂名	実施場所	実施頻度
地域互助力向上ネットワーク 0-100 地域の輪	Hola! Quwanne (オーラクワンネ)	オーラクワンネ (浜崎)	月1回
子どもクッキング クラブ SUN	えほん SUN、おやつ SUN	個人宅 (浜玉町)	月1回

参考：唐津市内の子ども食堂（子どもの居場所）実施箇所数 23箇所

第4 障がい者に関するデータ

(1) 身体・知的障害者手帳所持者数（R4.2.1 現在）

	身体障害者手帳	知的（療育）障害者手帳
浜玉地区	501 人	80 人
18 歳未満	11 人	31 人
18～64 歳	93 人	44 人
65 歳以上	397 人	5 人
唐津市全体	6,208 人	1,364 人

(2) 精神障がい者手帳所持者数（R4.2.1 現在）

浜玉地区	314 人
手帳所持者	77 人
自立支援医療受給者	237 人
唐津市全体	3,629 人
手帳所持者	938 人
自立支援医療受給者	2,691 人

(3) 浜玉地区内の就労支援事業所一覧（R3.5.1 現在）

指定年月	事業所名	定員	所在地	サービス区分
H27.7	福祉作業所 彩 (多機能型)	20 人	浜崎 1158-7	就労継続支援 B 型
H29.8	ステップ 将 (多機能型)	6 人	浜崎 1158-7	就労移行支援
H30.6	就 労 支 援 事 業 所 ohana	14 人	浜崎 2232	就労継続支援 B 型
		6 人		就労移行支援
R2.10	虹のかがやき	15 人	東山田 2101 番地 1	就労継続支援 A 型

※ 就労移行支援とは、18 歳から 64 歳までの障害や難病を持つ方で、一般企業への就職で社員雇用されることが可能、そして意志を持つ方が対象の制度。

※ 就労継続支援 A 型とは、一般企業への就職が困難な方で、雇用契約に基づいて働く場所、または生産活動の機会を提供することを目的とする制度。

※ 就労継続支援 B 型とは、一般企業への就職、雇用が困難な方で、雇用契約を結ばずに働く場所を求めている方を支援する制度。

◆ 公共施設カルテ

施 設 カ ル テ

調査年月日 令和2年1月16日

建 築 物 の 概 要										評価分布		位置図		
No.	5	-	-	施設名	唐津市ひれふりランド(保嬰センター)			棟の名称						
所在地	唐津市浜玉町洲上1602番地1													
竣工年月	平成	6	年	-	月	所管課	福祉総務課							
用途	-				分類									
構造	RC造													
階数	地上	2	階	地下	-	階	敷地面積	10,260.00		m ²				
延べ面積	2,461.21				m ²	建築面積	2,090.28		m ²					
総合判定	評価	D			評点	85		現存率						
コメント														
主な 外壁仕上	屋根	金属板葺 アスファルト保護防水 FRP防水												
共用部 内部仕上	外壁	磁器タイル貼												
	床	ビニル床タイル												
消防設備	壁	化粧コンクリート EPA												
	天井	ケイカル板16目透かし EPA												
	消火設備	● 消火器			● 屋内消火栓設備			○ 移動式粉末消火設備						
	○ 泡消火設備	○ スプリンクラー設備			○ その他()									
給排水 設備	警報設備	● 自動火災報知設備(火災報知器・感知器含む)			○ その他()									
	避難設備	○ 避難器具/避難ハッチ/避難スロープ/簡易避難設備/その他()												
	○ 誘導灯	● 非常用照明			○ その他()									
	消火活動 等の設備	● 排煙設備			○ 連絡送水管			○ 非常用コンセント設備						
その他の 設備	給水方式	○ 水道直結直圧			○ 水道直結増圧			○ 高地水槽方式			● 圧力タンク方式			
	排水方式	● 公共下水道へ			○ コミ・プラ 他へ			○ 浄化槽を経て放流			○ 汲み取り			
	昇降設備	● エレベーター			○ エスカレーター			○ ダムウェーター						
	ガス設備	○ 都市ガス			● プロパンガス									
備考	その他	○ 機械式駐車場			● キュービクル			○ 近隣電波障害対策設備						
		● 空調機			○ CATV			○ 携帯電話アンテナ設備						
		○ 避難設備			○ 太陽光パネル			○ 防犯カメラ						
		● 総合監視盤			○ 通風器			○ ポンプ設備						

施 設 カ ル テ

調査年月日 令和2年1月16日

建 築 物 の 概 要										評価分布		位置図		
No.	4	-	-	施設名	唐津市ひれふりランド(ひれふりホール)			棟の名称						
所在地	唐津市浜玉町洲上1602番地1													
竣工年月	平成	6	年	-	月	所管課	福祉総務課							
用途	-				分類									
構造	RC造													
階数	地上	2	階	地下	-	階	敷地面積	10,620.00		m ²				
延べ面積	1,852.98				m ²	建築面積	1,510.08		m ²					
総合判定	評価	D			評点	85		現存率						
コメント														
主な 外壁仕上	屋根	フッ素銅板葺												
共用部 内部仕上	外壁	磁器タイル貼												
	床	ビニル床タイル												
消防設備	壁	PEI2 目透かし EPA												
	天井	PEI9 目透かし EPA												
	消火設備	● 消火器			● 屋内消火栓設備			○ 移動式粉末消火設備						
	○ 泡消火設備	○ スプリンクラー設備			○ その他()									
給排水 設備	警報設備	● 自動火災報知設備(火災報知器・感知器含む)			○ その他()									
	避難設備	○ 避難器具/避難ハッチ/避難スロープ/簡易避難設備/その他()												
	○ 誘導灯	● 非常用照明			○ その他()									
	消火活動 等の設備	● 排煙設備			○ 連絡送水管			○ 非常用コンセント設備						
その他の 設備	給水方式	○ 水道直結直圧			○ 水道直結増圧			○ 高地水槽方式			● 圧力タンク方式			
	排水方式	● 公共下水道へ			○ コミ・プラ 他へ			○ 浄化槽を経て放流			○ 汲み取り			
	昇降設備	● エレベーター			○ エスカレーター			○ ダムウェーター						
	ガス設備	○ 都市ガス			○ プロパンガス									
備考	その他	○ 機械式駐車場			● キュービクル			○ 近隣電波障害対策設備						
		● 空調機			○ CATV			○ 携帯電話アンテナ設備						
		○ 避難設備			○ 太陽光パネル			○ 防犯カメラ						
		● 総合監視盤			○ 通風器			○ ポンプ設備						

唐津市ひれふりランド利活用検討委員会委員（令和４年２月８日設置）

	所 属	役職名	氏 名	備考
1	浜玉地区区長会	内町地区会長	脇山 日吉	
2		外町地区会長	堀 一豊	
3		玉島地区会長	田中 俊光 佐藤 方信	R4. 2. 24 ～R4. 3. 31 交代 R4. 4. 1～
4		平原地区会長	鳥巢 裕人 田中 秀敏	R4. 2. 24 ～R4. 3. 31 交代 R4. 4. 1～
5	浜玉地区社会福祉協議会	会長	佐々木 康博	委員長
6	浜玉まちづくり会議	委員	吉村 悦子	
7	浜玉町ＰＴＡ連絡協議会	会長	溝田 健一郎	
8	浜玉地区民生委員・児童委員連絡協議会	書記	堀 邦江	
9	老人クラブ連合会 浜玉支部	女性部長	岡田 悦子 栗原 久美子	R4. 2. 24 ～R4. 3. 31 交代 R4. 4. 1～
10	ボランティア連絡協議会 浜玉支部	支部長	内山 恵子	
11	手をつなぐ育成会 浜玉支部	支部長	志田原 富士子	
12	利用者代表 （地域互助力向上ネットワーク 0-100 地域の輪）	代表	中島 直子	
13	浜玉公民館	館長	浦郷 孝一	
14	唐津市保健医療課	課長	中村 勝	
15	唐津市浜玉市民センター	センター長	内山 茂昭 栗原 達也	R4. 2. 24 ～R4. 3. 31 交代 R4. 4. 1～